

日本メソヂスト広島中央教会堂

建築図面について

山 形 政 昭（大阪芸術大学教授）

■ はじめに

ヴォーリス建築事務所（近江八幡）により作成された日本メソヂスト広島中央教会、すなわち現在の日本基督教団広島流川教会の前身に当たる教会堂建築に関する鮮明な複写図面五三枚が、平成二四（二〇一二）年四月に図面の所有者である一粒社ヴォーリス建築事務所より広島市公文書館に所与され収められている。建築図面のタイトルは“HIROSHIMA METHODIST CHURCH”であり、ここでは「広島メソヂスト教会」と記すこととする。それらは当市において昭和二（一九二七）年に建てられ、原爆による被災焼失という危機を経て、戦後数回にわたって修復と復興を果たし、昭和四五（一九七〇）年まで上流川町八番地に所在した流川教会の建築を伝えている主要図面である。

これらの古図面原図は、かつて近江兄弟社（近江八幡市）に伝わってきたものであり、昭和五〇（一九七五）年に調査及び史料として保管のため大阪芸術大学に移され、近年は大阪芸術大学博物館に収蔵されている。

ウィリアム・メル・ヴォーリス（William Merral Vories, 一八八〇～一九六四）は、米国カンザス州レブンワースに生まれ、コロラド大学で哲学を学び卒業後、キリスト教の海外伝道を志しつつ明治三八（一九〇五）年に滋賀県立商業学校英語教師として来日。その後明治四一（一九〇八）年に建築設計監督事務所、明治四三（一九一〇）年にヴォーリス合名会社を設立し、米国のミッションに関連する建築設計を中心とした事業を始めた。そして間もなくキリスト教伝道活動のため近江ミッション（昭和九（一九三四）年に近江兄弟社）を起こし、建築と伝道というユニークな活動が近江八幡を拠点に推進されたのである。伝道では琵琶湖をモーターボートで行く湖畔の伝道が注目されるが、建築設計活

動は全国へと広がり、大正九（一九二〇）年にはヴォーリス建築事務所を設立し、キリスト教会堂、ミッションスクールの建築、洋風住宅など、多数の設計作品を各地に残している。

ヴォーリス建築事務所における設計件数は約一〇〇〇棟を数えることが知られているが、建築設計におけるキリスト教会堂は、ヴォーリスの活動の精神的支柱としたキリスト教とその活動に関わる建築であり、とりわけ重要なものであったといえよう。それらには木造による比較的小規模な建築も少なくないが、初期における煉瓦造の建築と一九二〇年代中期以降の鉄筋コンクリート造による建築に特色を発揮した。広島メソヂスト教会の建築はそうしたヴォーリスの建築において鉄筋コンクリートを活用した初期の作例として重要な位置にあるものといえる。

■ 沿革

本教会の年史には『日本メソヂスト広島中央教会五十年略史』（昭和十一（一九三六）年、以下『五十年史』と記す）、および『日本基督教団広島流川教会80年の歩み』（昭和四二（一九六七）年、以下『80年史』と記す）などがあり、それらによって教会堂建築の沿革を辿ることとする。

本教会の創立は米国南メソヂスト教会（南美似教会）派遣の宣教師ランバス父子により、主として子息のW.R.ランバスの支援と砂本貞吉の活動により明治二〇（一八八七）年に市内西大工町（現榎町）の民家における集会に由来する。この集会は同時に米国南メソヂスト教会による広島女学院の創立にもつながるものとなった。

本教会は明治二三（一八九〇）年に至り、紙屋町一二〇番地に最初の教会堂建築を建てて移転し、さらに大正三（一九一四）年には二代目の教会堂建築を工事請負工藤久太郎により、初代教会堂の近在に煉瓦造による会堂を新築し移転している。つづいて大正十三（一九二四）年に更なる教会の建築移転が課題とされ、大正十四（一九二五）年に新たな土地として上流川町八番地（源太堀角現鉄砲町）四〇七坪七合八勺が取得されている。そして大正十五（一九二六）年九月に第三代の教会堂となる建築設計がヴォーリス建築事務所と決定された。

その状況について『五十年史』において次のように記されている。

九月八日会堂建築実行委員会を開き建築請負業藤田組主藤田一郎氏も出席して、ここに工事請負に關し協議折衝の後、藤田組をして請け負わせることに意見の一致を得て契約を領す。翌九日近江八幡ボーリス建築会社主監ボーリス及び技師村田幸一郎氏来広し、藤田組技師と共に実地縄張りを為し、直ちに基礎工事に着手することとなった。

なお、ヴォーリズ建築事務所の記録（設計作品リスト）によると、大正十四（一九二五）年九月の日付にて“Hiroshima Meth. Ch. for Mr. Stewart”とあり、ヴォーリズはこの計画に際して大正十四年九月より対応し、同年暮れには現在に伝えられている基本設計図面が作成されていたことが分かる。

工事は順調に進められたようで『五十年史』によると、昭和二（一九二七）年二月二六日に定礎式、六月十九日に上棟式、そして十二月三日に工事竣工し日曜学校ホールにて感謝会が開催された。年が改まり昭和三（一九二八）年一月十五日に新築の教会堂において献堂式が挙行されたと記録されている。

以来、当市においては私立広島女学校（昭和七（一九三二）年より広島女学院）の発展と共に教会活動も進展し、昭和十一（一九三六）年には本教会及び広島女学院共に盛大なる創立五十周年記念会が開かれている。やがて戦時下を歩み、昭和二〇（一九四五）年八月六日に投下された原爆により被災。竣工より十七年を経た教会堂は焼失し、半ば崩壊した鉄筋コンクリートの壁体のみが残留する甚大なる被害を受けた。しかし翌年春より、その跡地において教会堂の礼拝が再開され、間もなく屋根の復旧が為されている。つづいて昭和二二（一九四七）年には当地において牧師館の新築、並びに教会堂床、窓が修復されている。昭和二三（一九四八）年には焼失した教育館（二六八坪）が新築され、つづいて昭和二七（一九五二）年には当初の建築工事を担当した藤田組による本格的な復旧工事が行われ、教育館と並び建つ教会堂が蘇った。

そして昭和四二（一九六七）年春には、創立八〇周年記念事業の一つとして『80年史』が刊行されている。そこには戦後期における復旧と教会活動の記録が、写真と共に収められており当市においても貴重な史料となっている。

■ 建築の概要

上流川町における第三次の本教会堂は、関係者の間では周知のように当敷地は東及び北側の二面が道路に面する角地にあり、西側奥行き深いL字型の敷地に在った。その東寄りに教会堂を置き、背後に接して西寄りに日曜学校の棟を連ねる二棟からなる建築であった。その概要は『五十年史』においては次のように記録されている。

教会堂は鉄筋コンクリート建にて古代ゴシック式を加味し教会堂として最も相応しき古雅なものである。講堂の幅員は約五十余坪にして裕に五百人を容る、座席を備へ、講壇及び玄関横に各一室を設く、ギャラリーには百五十人を容ることを得。

別棟の日曜学校建物は階下は双子室四室、すなわち小八教室、幼稚園室、教師室及び事務室を備え階上の講堂（幅員約四十余坪）には映画幻燈等を使用し得べき設備を為し、其傍に社交室、割烹室、休憩室等を設け、地下にはボイルを設備して会堂及び本館のヒートを通ず。この建物は将来日曜学校事業が、教会の堅固なる基礎たるべき大なる重要性あるに鑑み、敷地及び財力の許す限りにおいて委員等が特に多大の注意を払ったものである。……

こうした文書記録に加え、今回確認されているヴォーリズ建築事務所の設計図面、そして年史に収録されている古写真等の記録が伝えられており、これらの資料によって分かる建築内容を改めて概観しておきたい。



図1 広島メソヂスト教会
("The Omi Mustard-Seed" 1928年5月)

教会堂の建築は鉄筋コンクリート造、外観は擬石仕上げによるゴシック様式、スレート葺屋根の建築で、東を正面として玄関を設け、その脇に四層で高さ二〇数メートルの塔を配置していた。間口約十三メートル、東西の奥行き約二四メートル、建坪三二二平方メートル（九五坪）の建築で、礼拝堂は一、二階席を合わせて一五〇席を有する規模であった。

正面外観はゴシック様式に従って、玄関上部に大きな尖りアーチ（ランセット・アーチ）窓を置き、塔屋には二連の長大なアーチ窓、中世の城壁風パラペット意匠、尖り屋根など、石造ゴシック様式を範とした意匠で構成されていた。礼拝堂正面は半円形のプロセニアムアーチで区画され、メソヂスト教会の形式に従った講壇を設け、南北壁面には二連のアーチ窓で構成された幅六尺の大きな四対の尖りアーチ窓が並び、背面の二階席ギャラリイ上部には外観正面上部に置かれていた尖頂アーチの飾り窓が開かれていた。そしてとりわけ注目されるのが小屋組み架構として三連のハンマービーム・トラスを架けたオープン・ルーフ（化粧屋根裏）の構成で、アーチ状の曲がり梁、接合部の装飾的意匠、四つの屋根窓などあり、鉄部材で補強された特色のある洋式木造トラスの構造であった。

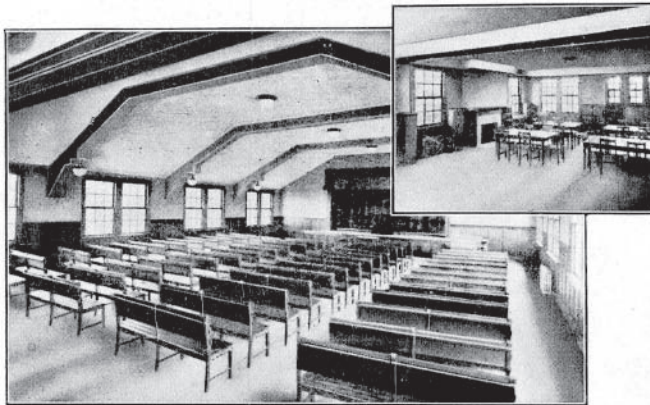


図3 日曜学校講堂及び社交室
("The Omi Mustard-Seed" 1928年6月)



図2 広島メソヂスト教会 日曜学校
("The Omi Mustard-Seed" 1928年6月)

日曜学校の棟は教会堂の西面に接して建つ木造二階建て、一部に地階を設けた建築であった。

正面外観は教会堂に従って擬石仕上げゴシック様式をとるが、側壁はモルタル塗り壁、スレート葺屋根で、西面には屋根より高く煙突が立ち上がっていた。南の源太堀通りに面して玄関を構え、間口約十一メートル、東西の奥行き約二七メートル、建坪三〇五平方メートル（九二坪）の規模であった。

諸室の用途は『五十年史』に記される通りであるが、玄関から館内を歩くように見てみよう。玄関につづいて、奥行き深い深いホールがあり、その正面が事務室、西側には「幼稚園・YMCA」と記された十五坪ほどの広間があった。この広間には立派な暖炉や書棚などが設置されており、二階の講堂と並ぶ多用途の中心的な場であったと思われる。ホールから南に廊下が伸び、四つの教室（各二室に分けられる）等が並んでいた。二階には階段に続くホールと、演壇を備えた講堂、社交室等があった。講堂背後（北面）は間仕切り折れ戸で、それを開くと一室空間となり三〇〇人（Capacity 300と記されている）を想定した広さであった。講堂の天井は大きなヴォールト（カマボコ型）で側壁よりブラケットで支持され、天井裏に納めたキングポスト・トラスの小屋組みによって幅十一メートルほど（三七・五尺とあり、礼拝堂の三六尺より長い）ある梁間を構成していたことが分かる。

■ 建築的特色 — ヴォーリス建築事務所の教会堂建築として —

ヴォーリスは明治四二（一九〇九）年の福島日本基督教会を最初の設計作品として、戦前期においておよそ一四〇棟のキリスト教会堂を設計している。これらの数例は『ヴォーリス建築事務所作品集』（城南書院、一九三七年）に収録されている大阪基督教会（一九二一年竣工）、神戸ユニオン教会（一九二八年竣工）、博愛社礼拝堂（一九三五年竣工）など、ヴォーリスの代表作品に数えられるものである。キリスト教会の建築はミッション・スクールの建築、数多くの住宅建築とともにヴォーリスの建築活動の主たる部分をなしているものである。

広島メソヂスト教会の建築については、近江ミッションの伝道誌“The Omi

Mustard - Seed” (一九二八年二月号) のニュース記事として取りあげており、一月十五日の献堂式にヴォーリス建築事務所よりメレル・ヴォーリスはじめ村田幸一郎、仲間氏らが出席したことなど報じられていた。そして次のような興味深いコメントが付されているのであり、拙訳にてその概要をここに記す。

…：鉄筋コンクリート造ゴシック様式の新しい教会堂であり、それは日本の教会堂において、新たなスタンダードとなる質と完成度を備えている。別棟であるがつながっている日曜学校と社会活動のための別棟があり、教室、談話室、講堂、台所、そして管理人室があり、全てにスチール暖房など近代的設備を備えている。講堂は堂々とし教会的雰囲気をもつもので日本の教会施設としては希なものであろう。……

構造、意匠共に充実した内容の教会堂と設備の整った日曜学校であること、そして「日本の教会堂における新たなスタンダード」という言葉で、模範的作品であることを表明しているのである。

ヴォーリス建築事務所による戦前期におけるキリスト教会建築は、先述したように明治四二(一九〇九)年の福島日本基督教会を最初の仕事として約一四〇棟を数えられている。膨大な数といえるがその過半は割合小規模な木造による建築であり、初期においては煉瓦造建築が多い。そこで、本教会堂と並ぶ規模を有する主なるキリスト教会堂建築として、十件の教会堂建築の概要(教会名、設計年、主構造、外観様式、トラス小屋組構造)をここに挙げてみた。

- 一 洛陽教会 一九二二年/木造/ゴシック様式/キングポスト・トラス
- 二 日本メソヂスト京都教会(京都御幸町教会) 一九一三年/煉瓦造/ゴシック様式/キングポスト・トラス
- 三 明治学院礼拝堂 一九一五年/煉瓦造ゴシック様式/シザーズ・トラス
- 四 大阪基督教会(大阪教会) 一九一八年設計、一九二二年竣工/鉄筋コンクリート併用煉瓦造/ロマネスク様式/キングポスト・トラス
- 五 救世軍本営(東京) 一九一九年/煉瓦造
- 六 豊岡メソヂスト教会 一九二二年/木造/ゴシック様式/キングポスト・トラス

- 七 広島メソヂスト教会 一九二六年設計、一九二七年竣工/鉄筋コンクリート造/ゴシック様式/ハンマービーム・トラス
- 八 神戸ユニオン教会 一九二七年設計、一九二九年竣工/鉄筋コンクリート造/ゴシック様式/ハンマービーム・トラス
- 九 京都復活教会 一九三五年/鉄筋コンクリート造/ゴシック様式/ハンマービーム・トラス
- 十 博愛社礼拝堂 一九三五年/鉄筋コンクリート造/ロマネスク様式

こうした作例に見るように煉瓦造建築より鉄筋コンクリート造への移行、そして伝統的様式による教会堂ではゴシック様式が優勢であり、小屋組みトラスを表すオーブン・ルーフの礼拝堂とする場合にはハンマービーム・トラスの活用の多いことが凡その傾向といえるであろう。大正十五(一九二六)年に設計された広島メソヂスト教会堂は、大正十二(一九二三)年の関東大震災後の耐震化構造への流れによって、鉄筋コンクリート造による教会堂建築の初期における事例となっている。なお、階段の造作、礼拝堂の窓建具など木材が多用されており、コンクリート構造とはいえ、礼拝堂内はオークの床板、オーク材(?)の腰板張り、木製によるゴシック式意匠のアーチ窓などにより、伝統的表現をよく留めたものとなっていた。その雰囲気も現存するヴォーリスの建築で探すと、大正四(一九一五)年に建てられた明治学院礼拝堂が類似といえよう。

広島メソヂスト教会につづく昭和二(一九二七)年の設計による神戸ユニオン教会の建築は構造、意匠において類似性があるが、構造及び材質の近代化が図られ鉄筋コンクリートとステール・サッシの積極的な活用へと向かっている。

ところで、キリスト教会建築の設計について、ヴォーリスの建築観が述べられるものに次の二編がある。

- 一 ヴォーリス(吉田悦蔵訳)『現代日本に於ける基督教会建築に就いて』『湖畔之声』(大正十三年九月)
 - 二 豊田清次(5)『教会建築六十一』『湖畔之声』(昭和六年十一月)
- 共に『湖畔之声』誌の読者、即ち近江ミツシヨンの関係者に向けたもので、当時における教会活動の傾向、教会建築の機能について言及されるところの多い

ものである。

その要点を次に記すと、前稿でヴォーリズは「欧米の教会堂に劣らない姿をもっているもの」として、「ヴォーリズ建築事務所によつた『大阪基督教会』（一九二二年、大阪）」とともに、「聖光教会堂」（川口基督教会、W.ウィルソン設計、大正九（一九二〇）年、大阪）、「神戸中央メソヂスト教会」（神戸栄光教会、曾禰中条建築事務所設計、一九二三年、神戸）の三例をあげている。それらは意匠、構造が適切であるとしてうえで次のように記している。

∴日曜学校や社会事業の為、又は現代教会としての、活動的方面のいろいろの部門に対して非常によく、設備が行届いて居るものが出来て来ました。大阪基督教会や神戸中央メソヂスト教会の如きはその第一階が全部日曜学校事業のために提供されて居ます、そして教会の礼拝堂の後部に於ては各階に亘りいろいろの部室が備わつて居ます。∴∴

つまり、これらの教会堂に付設された設備の充実度を評価しているのである。二の豊田稿は、「我がヴォーリズ建築事務所は過去二十有余年間に六十有箇所の教会堂建物を完成して参りました。」という実績からヴォーリズによる前稿と同様、教会建築の機能、構造、美の表現について建築設計の要点を述べているものである。そのなかで機能への対応と美の表現についての次の指摘が目される。

教会は教会らしく、宗教的を本意とする基督教会館は其精神を失はな
い程度に、美の表現を建物に明瞭に表現する必要があります。∴∴∴其表
現の爲に宗教的装飾を、複雑ならぬ様に施さねばならぬのであります。
∴∴∴

つまり、キリスト教会建築は、会堂での礼拝を主とする宗教的行事に止まらず、種々のキリスト教活動に対応する多様化の充実を求めていたのである。実際ヴォーリズによる近江ミッシヨンの伝道活動により琵琶湖沿岸の町々に設立された「基督教会館」は教会とYMCA会館を融合した性格をもった施設であり、

W.M.ヴォーリズのキリスト教思想が窺えるものなのであった。そして設計活動の盛期と見られる一九二〇〜三〇年代における教会堂建築においては充実した講堂を備えた日曜学校棟を併設した広島メソヂスト教会の構成に、ヴォーリズの教会建築における特色が鮮明に見出せるのである。

■ 比較される類別

1 神戸ユニオン教会

神戸ユニオン教会が移転地として神戸市中央区生田町の地を入手したのは、広島メソヂスト教会の建築工事の進む年の昭和二（一九二七）年で、間もなくヴォーリズ建築事務所はその設計が依頼されている。そして昭和三（一九二八）年に着工され、昭和四（一九二九）年六月に竣工した。鉄筋コンクリート造の建物で、西側道路に面して建ち、中央辺りに玄関を開きその北側に教会堂、南側に付属棟があり、幼稚園と牧師館を収めていた。教会堂は礼拝堂を二階に置き、一階を日曜学校施設とし、集会室及び教室等、そして礼拝堂に導く階段を配置していた。

つまり、この教会堂建築はヴォーリズによる広島メソヂスト教会に続いて設計されたものであり、鉄筋コンクリート構造、建築様式、意匠、そして日曜学校施設等の計画性において類似点が多く、かつ共に優れた質を備えた教会建築であった。例えば意匠においては教会堂正面におけるゴシック式トレーサリー（装飾）をもつ尖頂アーチ、塔上部の二連の窓やパラペツ



図5 神戸ユニオン教会礼拝堂
（『ヴォーリズ建築事務所作品集』昭和12(1937)年）



図4 旧神戸ユニオン教会
（現・フロインドリーブ）

トのデザイン、そして小屋組みのハンマービーム・トラスなど、広島メソヂスト教会とほぼ同種の意匠といえるものである。一方、鉄筋コンクリート造の活用では神戸ユニオン教会が付属屋を含めて一層進んでおり、窓建具はスティール・サッシュ窓となっている。こうした両建築により、昭和初期の教会堂建築における鉄筋コンクリート構造及び意匠にわたる導入状況が分かるのである。

本教会堂は昭和二〇（一九四五）年六月の戦火で焼失したが、戦後に復旧を目指し、昭和二六（一九五一）年に至って屋根を再建しているが、当初のトラスに替えて幾分シンプルなシザーズ・トラスに変更されている。

後年、平成四（一九九二）年に教会が移転の後、兵庫県南部震災を受けたが耐えて残り、平成十一（一九九九）年よりベーカーリーストランとして再生活用されている。

2 京都復活教会

本教会は日本聖公会の伝道により開かれたもので、京都市北区紫野の敷地を昭和七（一九三二）年に得て、間もなく木造の仮建築で教会堂と幼稚園を建て活動した。その活動は進展し、昭和九（一九三四）年には語学学校が開かれ、復活学園と称された。その頃に新たな建築計画がヴォーリズ建築事務所により作成され、昭和十（一九三五）年に着工、昭和十一（一九三六）年十月に竣工したものである。

北側道路に面して建ち、北西角に玄関ホールを収めた塔（ピース・タワーと称されている）、西側に教会堂、ホールに接続して北側に園舎がL字型に置かれている。塔及び教会堂は鉄筋コンクリート造で、礼拝堂は平屋であるが塔は三階建てとなっている。教会堂の規模は幅二四・三尺とやや小規模であり、小屋組みのハンマービーム・トラスは幾分簡素な構成となっている。そして園舎は木造二階建て、東側には大きな講堂兼幼稚園遊戯室が配置されている。

本教会は、広島メソヂスト教会に比べて、建築年においては数年下るものがあるが、先の神戸ユニオン教会と同様に、建築の計画性など類似点の多いものである。また復活学園として昭和初期に行われた語学学校、健康相談なども注目される。そうした活動は戦時下において休止を余儀なくされることとなったが、現在においても地域に根ざす教会の特色として継承されている。京都に

在る復活教会と幼稚園は戦火を免れたことで、現在も当初の建築を良く維持活用されており、歴史的にも貴重な建築であり、教会堂では昭和初期の鉄筋コンクリート造によるゴシック様式の表現として、また園舎では木構造及び木製の建具、階段など柔らかな表情を見せるヴォーリズの建築の特色を今に伝える歴史的建築となっている。

*

こうした類例により、広島メソヂスト教会がヴォーリズによる昭和初期キリスト教会における先取的作例であったことが分かるのであり、その設計における特色は残された建築図面によって、具体的に理解され記録されるものである。

■ 建築設計図面より

現存する主要図面五三枚には縮尺1/50の基本設計図面と縮尺1/20、1/10、1/1等の詳細設計図、数枚の構造設計図面があり、主なる図面には図面番号（ドローイング・ナンバー）が付されている。（その番号の欠番より、数枚の欠落図面のあることも分かる）

基本設計図面は平面図、立面図、断面図によるもので、建築全体の概要が分かる。そして種々の詳細設計図面により意匠及び仕様の細部が示されている。こうした図面における記録より、本建築の意匠設計上の特色として次の三点が挙げられよう。

一 ゴシック様式に従って、細部意匠の例えば、木製飾り窓トレーサリー（割



図7 京都復活教会礼拝堂



図6 京都復活教会外観

形透かし)、外観におけるモルタルセメント洗い出し仕上げによる彫形意匠、木製トラス部材端部の装飾など、入念で上質な設計が認められること。

二 構造躯体の鉄筋コンクリート、木材による造作及び建具に加えて、補強鉄材が用いられていること。例えば、トラス補強金物、塔小屋組の補強金物、二階ギャラリー床支持柱に挿入されている鉄パイプ柱補強などがある。

三 ヴォーリス建築事務所による設計における建物活用上の工夫と質を保持するための設計がなされていること。例えば、二階床下における遮音床仕様、窓下に収められた腰掛及び収納設備。階段下部に収められた靴箱。サニタリー・コーナーといわれる幅木下段の湾曲面、壁面につけられるピクチャー・レール、チェアー・レールの設備などが挙げられよう。

図面には道路に沿って設置された門扉の図もある。低い煉瓦積み腰壁上部には瀟洒な鉄柵を付すものであり、教会正面と、日曜学校正面には門扉を建てていた。夫々の門柱上部に設置された灯具をデザインした図面があり色鉛筆による彩色画となっている。その色彩には昭和二(一九二七)年暮れに竣工した当時の教会堂のイメージを彷彿させるものがあり、これらの図面から読み取れる内容は真に多いのである。

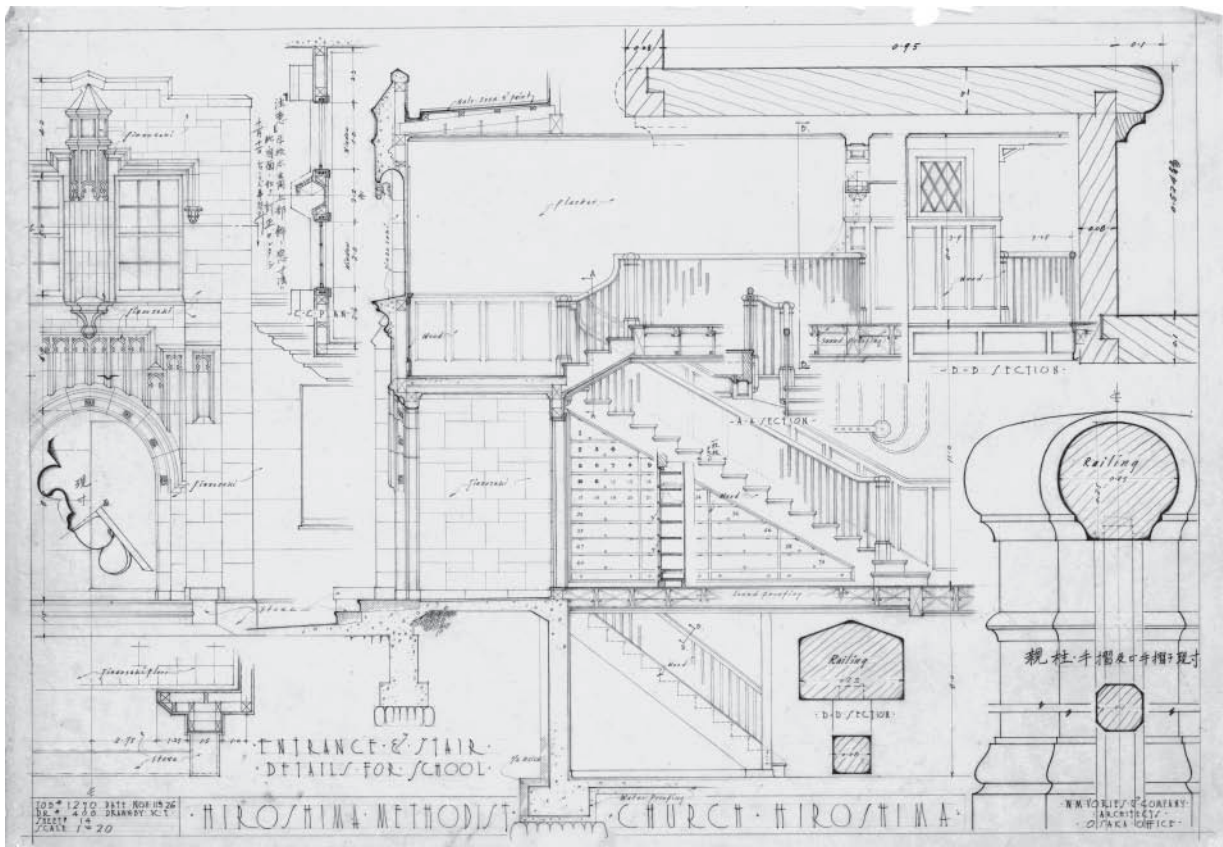


図8 ENTRANCE AND STAIR DETAILS FOR SCHOOL (日曜学校玄関および階段部詳細図)

	図面番号	図面	図面内容(タイトル)	日付
01	101	平面図	SKETCH OF FIRST FLOOR PLAN (計画図 1階平面図)	JULY.6.25
02	102	平面図	SKETCH OF SECOND FLOOR PLAN (計画図 2階平面図)	JULY.6.25
03	100	平面図	BASEMENT PLAN (地下階平面図)	
04	101	平面図	FIRST FLOOR PLAN (1階平面図)	
05	102	平面図	SECOND FLOOR PLAN (2階平面図)	
06	*	立面図、断面図	EAST ELEVATION, CROSS SECTION (東立面図 断面図)	*
07		立面図	NORTH ELEVATION (北立面図)	*
08		断面図	LONG ITUDINAL SECTION (断面図)	
09	401	建具図	DOOR DETAILS (建具表)	JULY.31.26
10	402	詳細図	WALL COSTRUCTION DETAIL (矩計図 展開)	AUG.9.26
11	403	詳細図	WINDOW DETAIL FOR CHURCH	AUG.11.26
12	(403-B)	詳細図	(WINDOW DETAIL FOR CHURCH)	*
13	404	詳細図	PLATFORM DETAIL (講壇 詳細図)	AUG.17.26
14		詳細図	WINDOW DETAIL FOR SCHOOL BUILDING (窓詳細図)	SEP.30.26
15	406	詳細図	BLACKBOARD & WAINSCOT DETAILS	OCT.4.26
16	407	詳細図	ASSEMBLY HALL, PLATFORM DETAILS	OCT.8.26
17	407-B	詳細図	(ASSEMBLY HALL, PLATFORM DETAILS)	JAN.29.27
18	408	詳細図	ENTRANCE & STAIR DETAILS FOR SCHOOL	NOV.11.26
19	409	詳細図	TOWER & STAIR DETAILS FOR CHURCH (塔 詳細図)	NOV.24.26
20	410	詳細図	ENTRANCE DETAIL FOR CHURCH (玄関 詳細図)	NOV.30.26
21	411	詳細図	会堂棧敷受ケ柱現寸図	FEB.24.27
22	*	詳細図	(会堂棧敷受ケ柱 詳細図)	*
23	*	詳細図	(教会堂棧敷 断面詳細図)	*
24	411	詳細図	(教会堂棧敷 断面詳細図) 一部変更図	MAY.16.27
25	412	詳細図	FIREPLACE & CHIMNEY DETAILS	JAN.6.27
26	413	詳細図	TIEROD DETAIL FOR HIROSHIMA CHURCH	DEC.10.26
27	414	詳細図	タイロッド附属飾木彫詳細図	DEC.21.26
28	415	原寸図	会堂内小屋受ケ飾ブラケット現寸図	DEC.20.26
29	416	原寸図	会堂内部の講壇アーチ線形及ピアーチ受ケ現寸図	DEC.23.26
30	417	原寸図	会堂玄関木製大扉蝶番代用飾金物現寸図	DEC.28.26
31	418	詳細図	会堂二階正面大窓詳細図	JAN.13.27
32	419	詳細図	二階集会場講壇上フットライト詳細図	MAR.9.27
33	420	詳細図	日曜学校正面二階出窓及ビ腰掛詳細図	MAR. 9.27
34	430-A	詳細図	BOOKCASE & OMBUTSU CASE	SEP.9.27
35	430-B	詳細図	DETAIL OF BOOKCASE & OMBUTSU CASE	SEP.12.27
36	*	詳細図、原寸図	広島教会日曜学校部事務室受付窓詳細図、現寸	MAY.3.27
37	*	詳細図	DETAIL FOR CROSS OF TOWER	AUG.16.27
38	*	詳細図	広島教会門及ビ揭示板詳細図	SEP.16.27
39	*	詳細図	(鉄扉及鉄柵詳細図)	*
40	*	詳細図	鉄扉及鉄柵詳細図	*
41	*	原寸図	扉各部現寸図、棚一部現寸図	*
42	*	原寸図	日曜学校本門ノ分、会堂ノ分	*
43	*	原寸図	各柱頭現寸図	*
44	*	原寸図	定礎石文字現寸	*
45	*	スケッチ	教会表門々灯[2個]	*
46	*	スケッチ	日曜学校門灯[2個]	*
47	*	スケッチ	六個[会堂]	*
48	*	スケッチ	一個[チェン付] 三個[会堂棧敷下]	*
49	*	スケッチ	教会一階階段室ブラケット、日曜学校表階段踊場ブラケット[2個]	*
50	*	スケッチ	教会ギャラリー・ブラケット[4個]	*
51	*	スケッチ	六個[ファイヤブレース上 二、日曜学校講堂 四]	*
52	*	構造図	(基礎、梁 詳細図、リスト)	FEB.1.27
53	*	断面図、配筋図	日曜学校便所床配筋図、断面図	APR.21.27

註 図面内容(タイトル)については、原則として原文のままとしたが、図面中に()を用いて記載されているものは[]で表示、また、補記したものについては()で表示した。
 なお、上記主要図面以外に門扉詳細図2枚がある。